

資料室だより 24

ヴァチカン図書館について

この春、イタリア旅行中に、聖グレゴリオの家の資料室司書としてヴァチカン図書館への入室を許され(所長のご配慮によります)、写本の閲覧、図書館の見学をしてみました。

当然ながらヴァチカン図書館(Biblioteca Apostolica Vaticana)は聖書図書館として最大規模を誇り、特に最古のギリシャ語聖書写本を含む写本類の収集で知られています。

教皇ニコラウス5世(在位1447-55)が特に写本の収集に力を入れ始め、コンスタンチノポリス没落後、売りに出された写本のうちからギリシャ語のものを金貨4万枚を払って購入したという記録があります。現在所蔵する写本は6万5000。印刷術が発明されてからはもちろん刊本の収集が主になり、約7000のインキュナブラ、75万(芸術、考古学関係を除く)の刊本があります。日本との関係で言えばキリシタン関係の重要な文書、写本類があります。例えばキリシタン時代に使用された「要綱」「クルス物語」「聖人伝」など、また支倉常長持参の伊達政宗書状、日本人キリシタンが教皇に持参した奉書状などです。

写本、貴重書以外は手に取って見られる開架式になっており、レファレンス・トゥール、カタログ類を見て歩くだけでも大変時間がかかりました。キリスト教芸術インデックスという一部屋も設けてありました。

館内にはきちんとスーツを着た司書の方々が実にきびきびと利用者に対応していらっしゃいます。また随所にコンピューターが設置され、オンライン検索もできるようでした。私は写本室で音楽関係の写本を見てきました。これはスペインの作曲家ビクトリアの個人的研究のためです。

付属施設として写本の修復所、撮影所もあり、大部分の写本はマイクロフィルムに収められ、アメリカのセントルイス・カトリック大学に保管されているそうです。

建物内の天井画や装飾も素晴らしく、このような落ち着いた雰囲気の中で静かな研究の時間が持てる方々をうらやましく思いました。教皇庁図書館として長く閉ざされていましたが20世紀になってこのような知の宝庫を世界の研究者に対して開放したおかげで学問の世界でも国際的に重要な機関となっています。ここで出している出版カタログ *Publicazioni della Biblioteca Apostolica Vaticana*(1996年版)をいただいていたのでご興味のある方にお見せすることができます。図書館活動自体の研究活動の素晴らしさが伺えます。

追記) 2015年に行われた「ヴァチカン教皇庁立図書館展 II—書物が開くルネサンス—」のカタログも資料室にございます。迫害に苦しむ日本のキリシタンが教皇に送った書状(カラー版)には深く心を打たれます。

(杉本ゆり 記)